

「新しいみえの文化振興方針（仮称）」中間案の構成イメージ

「みえ県民カビジョン」の基本理念 県民力でめざす 幸福実感日本一の三重

方針策定の主旨

次の点をふまえ、10年先を見据えた文化振興の新たな方針として策定

(1)文化を取り巻く環境
 <環境の変化>情報手段の多様化、情報のグローバル化
 <期待される役割>アイデンティティの基盤、心の豊かさを育むエネルギー源、少子高齢化等の社会課題への対応に寄与

(2)社会情勢の変化（国の文化政策、経済情勢、東日本大震災の発生）

(3)本県の文化行政を取り巻く環境の変化（みえ県民カビジョンの策定、財政状況、三重県総合博物館の開館と「文化交流ゾーン」の形成）

みえの文化の特長

(1)日本の精神文化の源流 (2)交流による発展 (3)地域性の豊かな文化

みえの文化の本質

「不易」と「流行」の文化

- 知識や技術が時代を超えて継承される（循環） → 「不易」を生じる
- 人・モノ・情報が地域を越えて行き交うこと（交流）により、多様な文化を受け入れて新たな価値を生み出す → 「流行」を得る

このような「不易流行」の考え方こそが、新たな文化の創造につながってきた

- そして、私たちが長年にわたって培ってきた「寛容」や「おもてなし」の精神が、そのようなみえの文化を支えてきた
- みえの「ええとこ、ええもの」を守り伝えながら、時代に応じた変化を受け入れることで、新たなみえの文化が生まれ、一層発展する可能性を秘めている

基本目標

- ①文化を通じて幸福実感を高めるとともに、次代のみえを担う若い世代を育成する
- ②郷土に誇りと愛着を感じられるようにするとともに、みえの文化の素晴らしさを県内外に発信する
- ③多様な文化を受け入れ、交流・連携することにより、新たなみえの文化を創造する

5つの方向で施策を実施

- 留意点
- 環境変化への対応
 - 長所の伸張
 - 課題の解決
 - 県の役割と各主体との関係等

施策の方向性1 人材の育成

重点

<ねらい>10年後、20年後のみえを担う人間性や「創造力・想像力」の豊かな人材の育成に資するとともに、文化振興を担う専門人材を育成することにより、みえの文化芸術のレベルアップを図る

施策の方向性2 歴史的資産等の継承・活用

<ねらい>今ある文化資源に光りをあて、さらに磨きをかけて次代に伝えることで、県民の皆さんが自らの地域に誇りと愛着を感じられるようにする

施策の方向性3 新たな価値の創出

<ねらい>ものづくりや観光に文化の側面から新たな価値を加え、経済的な活力を生み出す
 また、新たなみえの文化を創造するとともに、広域的に連携することで、みえの文化の魅力を高める

施策の方向性4 情報の受発信

<ねらい>県内外（海外を含む）にみえの文化の魅力を伝え、さらにみえを好きになってもらう
 また、日本や世界の文化に触れることで、みえの文化を見つめ直すとともに、文化に対する関心を高めてもらう

施策の方向性5 文化の拠点機能の発揮

重点

<ねらい>文化施設の集積を生かして、市町等との連携を強化する中で、「文化交流ゾーン」の成果を広く全県域に届けるとともに、より多くの人々が訪れ、さまざまな文化に接して感性を高め、文化に新しい息吹を吹き込むことができるような場とする